

2019 年度アクティブラーニング思考力特待入試（60 分間）

実際の流れ

● テスト開始前

ひとつの丸いテーブルを囲むように 6 名がけの椅子が並んでいます。

テーブルごとにグループが分かれます。またテーブルごとにホワイトボードがあります。

受験生は、受付後に指定された場所に着席します。

● あいさつ、テストの趣旨説明（5 分）

「ほとんどの入試は、周りは競争相手です。でもこの入試は、周りと協力しあって進んでいきます。先生たちも監視しているわけではありません。」

● アイスブレイク（5 分）

「そうは言っても緊張しますよね。そこで心と体をほぐしましょう。」

これからの AL 入試へむけてリラックスし、協調的なマインドに整えることが重要です。無理に目立つ必要はありません。

● 活動（計 45 分）

中央のプロジェクター、および 3 つのサブモニターに表示されるスライドに沿って指示が出されます。

①「あなたが『うれしい』と感じるのはどんなとき？具体的にふせんを書いて、はりましょう。」

「終わったら、おたがいにながめてみてください。」（5 分）

②「その中で、『幸せだ』と感じるものをひとつ選んでください。」

③「いまひとつ選んだときに、何か理由があったはずですよ。その理由をおたがいに説明しあって、みんなが幸せについて考えて下さい。」（10 分）

「そのとき、おたがいの理由の共通点や、ちがいに注意してみましょう。気になったことはどんどん質問しあって下さい。」

「ホワイトボードの使い方は各グループにまかせます。」

特待合格者は、独断で議論を主導しようとする児童を制しつつ、話せていない児童にも無理強いしないように意見を聞き出し、書記役ともコミュニケーションを忘れないなど、メンバー全員が尊重されている対話の場を作っていました。

進行役・書記役そしてホワイトボードの使用などは必須ではありませんが、変にゆずりあっていると時間が無駄になります。自分がどうチームに貢献できるか知っており、活かせることが大切です。

④議論を深める問いの例がスライドに表示され、紹介されます（③開始後 5 分経過のあたり）

「『うれしい』と『幸せ』の**違い**は？」「もし、**いつも**幸せだったらどうだろう？」

こんなことを考えてみるといいでしょう：「うれしいけど幸せじゃないことはある？もしあるとしたら、なんで幸せと感ぜないんだろう？」「いつも幸せな人は自分が幸せなことに気づけないのかな？」

だとしたら、幸せを感じるためにはそもそも不幸せが必要なの？」
教員側で答えを用意したり、それに近いことを言っているグループを評価したりということはしていません。難しい問いですが、人任せにせず、自分から周りを巻き込みながら探究を楽しめていることは重要です。

⑤物語『幸せな王子』（スライド有り）の読み聞かせ（5 分）

集中して聞きましょう。

⑥「王子にとっての幸せとは何でしょうか？」

「ひとつに決めてホワイトボードに大きく書きましょう。どうやってそれに決まったのかということと一緒に、他のグループに紹介してもらいます。」（5分）

これまでメンバーそれぞれの幸せを元に話してきましたが、ここでは一般的な小学生と立場のちがう「王子」にとっての幸せを考えます。

この過程を通して、相手が何に幸せを感じるのか、相手の価値観を含めて改めて考えます。

⑦「それでは紹介をはじめて下さい。」（10分）

紹介を行う受験生は、グループで行われた議論の流れを理解している必要があります。

ここでは、王子の幸せが何なのか意見が一致するどころか、各グループで解釈が異なるということが鮮明になります。⑥と⑦を通して幸せについての理解が揺さぶられ次に繋がります。

⑧「今日これまでやってきたことを振り返ってみましょう。」

これまでの活動を列挙し、内省を促します。

⑨「では最後の質問です。『あなた』にとって幸せとは何ですか？」（10） ※ワークシート配布

個人の身近な経験の吟味から始まり、他者の感じる幸せを客観的に考察し、最後にあらためて自身自身の幸せに立ち戻って個人でワークシートに書き留めます。受験開始時に感じた幸せと、受験終了時での幸せについて比較することも促します。

⑩「グループ内で自分の幸せを紹介しあってみてください。今日の振り返りも書きましょう。」

ワークシートに振り返りを記入します。ネガティブな振り返りであっても評価には影響しません。

● メッセージ（5分）

皆さんはこれまで受験勉強を頑張ってきて、今日も試験を受けにきています。その生活の中で苦しかったことも多いと思います。私たち大人もそうですが、生活の中にあるはずの小さな幸せを無視したり、何も感じなくなったりすることは珍しくありません。

私たちは皆さんが「かえつ」で学ぶことを通して幸せになっていくことを願っていますが、集団で緊張して苦しむ入試より、幸せについて考え、幸せを感じるようになれる入試を作ってみました。

今日は難しかったでしょうか。何か思い出に残る経験になったでしょうか。入試を受ける前と後で、何か小さな変化があれば、私たちもうれしいです。今日はみんなと一緒にみつけたあなたの幸せを持って帰ってください。